

様式 2

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：医学

部会長名：上野易弘

作成者名：上野易弘

概要（2000 字）

1 実施体制について

教育部会「医学」は医学科と保健学科の教員で構成されている。前期には医学科教員が「健康と病気」を、保健学科教員が「身体の成り立ちと働き」を担当し、後期には保健学科教員が「健康と病気」を、医学科教員が「身体の成り立ちと働き」を担当して授業を実施した。

医学科・保健学科共に、後期「身体の成り立ちと働き」を除いて、講義は複数の教員によるオムニバス方式で行った。その理由は、医学、保健学ともに扱う範囲が広く、的確で且つ正確な講義を行うためには、それぞれの専門家が講義を担当するのが適切であると考えた為である。

医学科、保健学科間での講義内容の調整は行っていないが、受講した全学生に一律に同一の知識を習得させることが必要な科目ではない為、問題ないと考えている。

2 教育課程の編成および履修状況

教養原論「身体の成り立ちと働き」、「健康と病気」の開講目的は、学生に健康の大切さを知り、自分たちの健康を維持・増進する為、まずは自分たちの身体の仕組みを知り、病気にならないための正しい知識を身につけてもらうことである。

「身体の成り立ちと働き」は、自らの身体の構造と働きを知り、その特性を理解することによって、一層健康的な生活を心掛ける動機を与えることを目標として実施した。

「健康と病気」では、現代社会で注目されている様々な疾患に焦点を当てて分かりやすく解説することにより、平素より自己の健康に気を配り、病気に対して正しい知識を持つことを目標として、病気の原因および健康維持に関して最新の研究結果を講義に組み込んで授業を行った。

学生の受講態度はおおむね良好で、出席率も概ね良好であった。

3 教育方法、学生と教員の接触、成績評価、クラスサイズ、教室環境、授業評価等。

教育方法は授業形式で行われた。

現在の受講学生数は百名程度である為、現行の教育形式の変更は困難である。

学生の理解度を深めるために講義の途中で質問を随時受け付け、全体としての理解を深めるように配慮した。また、講義内容を要約した資料を配付することにより、講義内容の理解と復習に役立つように配慮した。前期「健康と病気」ではティーチングアシスタントの活用により、学生と教員の意見交換の円滑化を図った。

成績評価は学期末の定期試験で行った。各講義ごとに重要な点を明示するように心掛けていた為、我々の想定した到達目標に大部分の学生が達していたと思われる。

学生による授業評価を見ても、教育の成果や効果は上がっていると考えられた。

様式 2（続き）

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②： 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

「健康と病気」は、平素より自己の健康に気を配り、病気に対して正しい知識を持てることを目的としている為、様々な疾患に焦点を当てて分かりやすく解説した。

「身体の成り立ちと働き」では、人体の構造と機能について、健康との関連を考慮しつつ、学習できるように編成した。何れも教育課程編成の趣旨に沿っている。

根拠資料
シラバス

5-1-③： 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

講義はシラバスに沿った内容となっており、講義前に講義のレジメやプリントを配付することにより、学生の理解を深められるように工夫した。又、健康科学の最新の研究成果を授業に組み入れ、最新の知見を提供した。

根拠資料
シラバス

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

全ての講義は決められた日時にシラバスの通りに行われており、時間外学習などは行われていない。従って、単位の実質化への配慮がなされていると考える。

根拠資料
シラバス

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

八十人以上の学生を対象に大講義室で行う講義である為、少人数性の指導は無理である。受講した全学生の理解度を深めるために講義の途中で質問を随時受け付け、全体としての理解を深めるように配慮した。また、レジメを配付することにより復習に役立つようにも配慮した。また、TAの活用により学生と教員の意見交換がスムーズに行われた。重要点は、特に力点を入れて講義を行なった。

根拠資料
学生向け配付資料

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

講義のレジュメを配付し、復習に活用出来る様にした。TA を活用して学生との意見交換を円滑にし、基礎学力不足の学生にも配慮した講義を行った。文系学生にも無理なく理解出来る様に、可能な限り平易な講義を行った。

根拠資料
学生向け配付資料

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価はシラバスに記載の通り、出席数と試験の点数により公平に算出された。その結果、例えば前期「健康と病気」では、優が65%、良が20%、可が9%、不可が2%と全体として優秀な成績となっている。

根拠資料
成績表

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

学生の授業評価によれば、「健康と病気」では約六割の学生が総合的に有意義或いはどちらかといえば有意義と回答していることから、教育効果が上がっているものと思われる。「身体の成り立ちと働き」に於いても、同様に教育効果は上がったと考えられる。

根拠資料
学生による授業評価

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

オフィスアワーの設定又は電子メールの活用により、学生の質問に答える態勢を整えた。

根拠資料
シラバス